掲示文書

課題名：膵胆道術後の肝外肝動脈出血に対するIVR（経カテーテル的治療）：救命率と救命に寄与する因子についての後方視的研究

本研究の目的

後方視的に膵胆道術後の肝外肝動脈出血に対する IVR（経カテーテル的治療）の成績を全国的に調査し、その現状と有用性を検討する。特に、救命率と救命に寄与する因子を重要課題として検討します。

本研究の対象

本研究の対象者は既に IVR を受けられ、以下の条件を満たした症例です。

１） 膵胆道術後の出血症例の中で、肝外肝動脈(総肝動脈、胃十二指腸動脈断端部、固有肝動脈)からの出血に対してIVRが施行された症例。

２）2005年1月～2011年12月の間にIVRが施行された症例。

本研究の意義

膵胆道術後合併症の中で、肝動脈出血は最も致死率の高い病態であります。術後の肝外肝動脈出血に対して、多くの場合、動脈塞栓術が第一選択として施行されてきました、塞栓術は高い手技的成功率で止血を得ることができる一方で、塞栓術後に肝動脈血流低下による肝不全、出血による多臓器不全での死亡も少なくありません。近年、肝動脈血流を温存して止血するステントグラフト

留置術の有効性についての報告も散見されるようになってきましたが、その評価は未だ定まっていません。

そこで膵胆道術後の肝外肝動脈出血に対して塞栓術、またはステントグラフト留置術を施行した症例の多施設共同調査を行い、多くの症例を集積して、治療成績（手技的成功率、合併症、救命率、転帰）を検討することは、今後IVRを行う上での道標となる可能性があります。

本研究での評価項目

既に施行されているIVRの治療結果を評価します。診療録を調べて調査することが主な調査方法であります。調査項目は、個人識別、臨床診断、術式、出血の種類、検査所見、画像所見、IVR手技、手技後の結果であります。これらの結果をもとに、手技的成功率、術後合併症、救命率、転帰、救命に寄与する因子等を検討します。

本研究への参加と個人情報保護

この研究への参加はどの段階でも撤回できます。

本研究への参加を拒否されても何ら不利益は生じません。

この研究に参加することで特別な謝礼等の資金援助はありません。

学会論文発表は完全に匿名化してなされます（名前、ID、イニシャル、生年月日は記載されません)。

症例の個人情報は匿名化されますので、個人情報が漏洩することはありません。

問い合わせ、苦情等の窓口の連絡先

所属　金沢大学附属病院　放射線科

職名　助教

氏名　南　哲弥

電話番号　076-265-2323　（放射線科医局）